

驚異に満ちたキルヒャーの 伝説的代表作 本邦初紹介！

『普遍音楽』は、17世紀に記された最も重要な論考のひとつであり、

バッハやメンデル後代の作曲家たちに

多大な影響を与えた。

しかし、好奇心のかたまりであり、

奇事異聞のこよなき

愛好者であるキルヒャーの

想像力は、音楽史の枠に

とどまることがない。

彼は彼の時代までに

行われていたほとんどの

作品形式について、

ていねいに論を進める一方、

ひとたび古代音楽を

相上にあげると、

その空想力と妄想力は

全開となる。

ナマケモノの歌、歌う魚、

猫オルガン、拡声器、盗聴装置、

会話する彫像、イオリア堅琴、

自動作曲機械などの

不可思議な事物が次々に登場

さらに実験的音楽論は

「音は光をまねる猿である」

という主題のもとに語られ、

宇宙の神秘と真理は

パイオルガンの音と

構造の中に見出される。

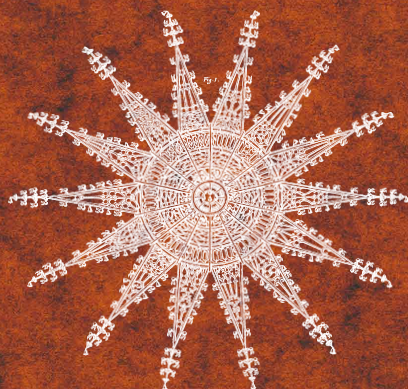
驚異に満ちたアタナシウス・キルヒャーの

伝説的代表作！

私の蔵書でいちばんの自慢は、
キルヒャーのほぼ完全なコレクションである。

● ウンベルト・ニコ

アタナシウス・キルヒャー 普遍音楽 調和と不調和の大いなる術 菊池 賞＝訳



Athanasius Kircher

Musurgia universalis sive
ars magna consoni et dissoni



アタナシウス・キルヒャー
Athanasius Kircher 1601-1680

ドイツ出身の学者、イエズス会司祭。その好奇心の対象は多岐にわたり、古代エジプトとその言語と象形文字、光学や磁気学をめぐる自然学、音楽、天上界と地上界、地質学、光と影、医学、暗号論、中国学など幅広い分野の著作を残した。ヒエログリフ解読の先駆者、あるいは伝染病微小生物原因論を初めて実証的に示し予防法を提案したことでも知られる。その著作群は、一時はデカルト的合理主義の立場から批判にさらされたが、20世紀後半には、その業績の先進性と多彩さが再評価されるようになり、「遅れてきたルネサンス人」とも呼ばれるようになった。

● 訳者プロフィール

菊池 賞 [きくち・ほまれ]

1965年、岩手県生まれ。東京大学ドイツ語ドイツ文学専修課程卒。訳書にE.G.バロン著「リュートー 神々の楽器」、V.ガリレイ「フロモノ」(いずれも東京コレギウム)がある。

● 本書はアタナシウス・キルヒャー『普遍音楽』のA・ヒルシュ篇のドイツ語版を基に訳出したものである。ヒルシュ篇では図版がほとんど採録されていないため、ラテン語版原著からこれを補った。

定価＝本体4,800円＋税

A5判変型/上製/448ページ

ISBN978-4-87502-450-7

2013年7月15日刊行予定

〒169-0072

東京都新宿区大久保2-4-12

新宿ラムダックスビル12F

tel＝03-5155-8940 fax＝03-5155-8941

http://www.kousakusha.co.jp

saturn@kousakusha.co.jp

17世紀最高の博識家である。
キルヒャーは、
ステューヴン・シイ・ケルト



工作舎



「キルヒャーの世界図鑑」

▼ ジョージ・ゴドウィン

▼ 川島昭夫 訳 滋澤龍彦 中野美代子 荒俣 宏 付論

▼ 定価 本体2,900円＋税

▼ 中国文明エッセイ起源説地下世界論など幻想科学者の奇想で膨大な業績を豊富な図版とともに紹介